

暑い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。お子さんの具合はいかがですか。今年梅雨前線の活動が活発で九州地方には大雨が降りました。数日間で年間降水量の半分程の雨が降ってしまい、土石流など大被害が出てしまいました。しかし、どんなに大雨が降っても年間の降水量はあまり変わらないといえます。春に大雨が降ったところは秋には雨は少ないのでしょうか。自然は猛威を振るっているようで実は大変なバランス感を持っているのかもしれませんが。考えてみれば人間の体も太古の昔から生を受けた以上本来は健康に過ごせるようになっていないのでしょうか。そんな本来の生きる力を信じて頑張りましょう。

< 第 2 5 回 ほほえみの会 >

今回は医師、看護婦さん含めて10人足らずの出席でした。退院している方が多く家での心配や、病院の現状などについて話が出ました。

高校生の娘は退院後、体力的にも精神的にも少し弱くなっている。「学校に行きたい」「行かなければいけない」という気持ちが強くプレッシャーにもなっているようだ。また自分の主治医の先生がこども病院を去ったのも不安の一つで近いうちに会いに行きたいという。

5歳の息子は退院後身長伸びが遅く、3歳の弟と同じくらいになっている。免疫力も低く人混みとかに出すのは心配だが、本人は外で遊びたがる。プレドニンという「食べなくなる」副作用のある薬を服用。お菓子など食べているが虫歯がひどくなってしまい困っている。

発病時の話もできました。

子供の病気を知ったときには、最初母親は「何故こんな病気に」「何故もっと早く気がつかなかった」と悔やむことばかり。また近くの病院で診てもらってもわからないケースも多いようです。中には総合病院で診てもらっていても病気がわからなかったケースもあります。こども病院は基本的に紹介状がないと診てもらえませんが、病院には病気について相談に乗ってくれるところがあって、電話で問い合わせに答えてくれるそうです。そして診た方がいいという場合にはその医師の紹介ということで診察が受けられるということです。

血液科には今年に入って半年間で、およそ25人が新しく診察を受け、そのうち半数が入院治療を受けているという事です。数年前に吐き気止めの薬が普及して以来、病院内の様子も大きく変わりました。かつては吐き気がひどく子供達は「のうぼん」を持ち歩いていましたが今ではそんな風景はないようです。治療法も大きく変わって、進歩しているという事です。

「のぞみの会静岡支部」が10月12日に総会を予定しておりこども病院で“メンタルケア”について聖路加病院の医師の講演があります。10月は「ほほえみの会」もこの会に参加し、合同開催とします。

たくさんの方から会費と寄付のお金を送っていただきました。ありがとうございます。会費は1000円です。未納の方は是非納入をお願いします。

次回は8月10日(日)12時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一